

校内研修動画【B-2】

教科等を横断した教育課程の設定

愛媛県総合教育センター
教科教育室

校内研修動画【B-2】

教科等を横断した教育課程の設定

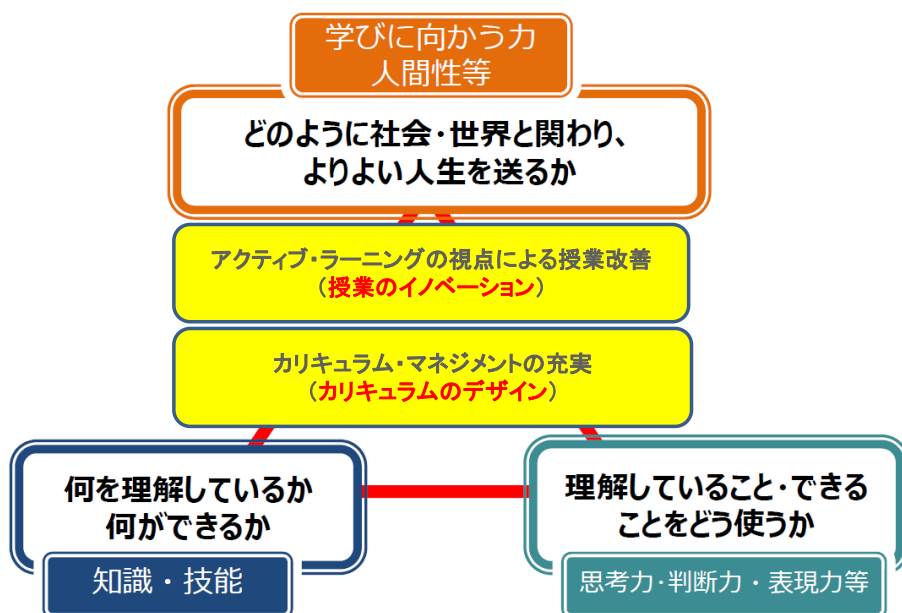
研修のねらい

教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立て、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る。

研修の内容

- ① 教科等横断的な視点の確認
- 2 教科等横断型教材の開発例の紹介
 - (1) 社会科と国語科
 - (2) 家庭科と国語科
- 3 研究協議

育成を目指す資質・能力の三つの柱



カリキュラム・マネジメントの3つの側面

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していく。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる。

(平成29年度小中学校新教育課程説明会(中央説明会)における文部科学省説明資料)

学習指導要領(平成29年3月31日公示)における「第1章 総則」の構成

小(中)学校学習指導要領 ※()内は中学校

前文

第1章 総則

第1 小(中)学校教育の基本と教育課程の役割

何ができるようになるか

- 1 教育課程編成の原則
- 2 生きる力を育む各学校の特色ある教育活動の展開
 - (1) 豊かな学力、(2) 道徳教育、
 - (3) 体育・健康に関する指導
- 3 育成を目指す資質・能力
- 4 カリキュラム・マネジメントの充実

第2 教育課程の編成

何を学ぶか

1 各学校の教育目標と教育課程の編成

- 2 **教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成**
 - (1) 学習の基盤となる資質・能力
 - (2) 現代的な課題に対応して求められる資質・能力

3 教育課程の編成における共通事項

- (1) 内容の取扱い
- (2) 授業時数の取扱い
- (3) 指導計画の作成等に当たっての配慮事項

4 学校段階等間の接続

- (1) 幼児期の教育との接続及び低学年における教育全体の充実
 - (1) 義務教育9年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程の編成
- (2) 中学校教育及びその後の教育との接続
 - (2) 高等学校教育及びその後の教育との円滑な接続

第3 教育課程の実施と学習評価

どのように学ぶか
何が身に付いたか

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- (2) 言語環境の整備と言語活動の充実
- (3) コンピュータ等や教材・教具の活用、コンピュータの基本的な操作やプログラミングの体験
- (4) 見通しを立てたり、振り返りをする学習活動
- (5) 体験活動
- (6) 課題選択及び自主的、自発的な学習の促進
- (7) 学校図書館、地域の公共施設の活用

2 学習評価の充実

- (1) 指導の評価と改善
- (2) 学習評価に関する工夫

第4 児童(生徒)の発達の支援

子供の発達を
どのように支援するか

1 児童(生徒)の発達を支える指導の充実

- (1) 学級経営、児童(生徒)の発達の支援
- (2) 生徒指導の充実
- (3) キャリア教育の充実
- (4) 指導方法や指導体制の工夫改善などに応じた指導の充実

2 特別な配慮を必要とする児童(生徒)への指導

- (1) 障害のある児童(生徒)などへの指導
- (2) 海外から帰国した児童(生徒)や外国人の児童(生徒)の指導
- (3) 不登校児童(生徒)への配慮

第5 学校運営上の留意事項

実施するために何が必要か

- 1 教育課程の改善と学校評価(、教育課程外の活動との連携)等
- 2 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

第6 道徳教育に関する配慮事項

(平成29年度小中学校新教育課程説明会(中央説明会)における文部科学省説明資料)

小学校学習指導要領 第1章 総則

第2 教育課程の編成

2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- (1) 各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。
- (2) 各学校においては、児童や学校、地域の実態及び児童の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

小学校学習指導要領 第1章 総則

付録6「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容」

- | | |
|-------------------|------------|
| ①伝統や文化に関する教育 | ②主権者に関する教育 |
| ③消費者に関する教育 | ④法に関する教育 |
| ⑤知的財産に関する教育 | |
| ⑥郷土や地域に関する教育 | ⑦海洋に関する教育 |
| ⑧環境に関する教育 | ⑨放射線に関する教育 |
| ⑩生命の尊重に関する教育 | |
| ⑪心身の健康の保持増進に関する教育 | |
| ⑫食に関する教育 | |
| ⑬防災を含む安全に関する教育 | |

研修の内容

- 1 教科等横断的な視点の確認
- 2 教科等横断型教材の開発例の紹介
 - (1) 社会科と国語科
 - (2) 家庭科と国語科
- 3 研究協議

2 教科等横断型教材の開発例の紹介 (1) 社会科と国語科

単元 小学校第3学年 社会科「店ではたらく人」
国語科「わたしたちの学校じまん」

社会科

調べた情報を整理し、販売の仕事と地域の人々の生活の関連を考え、適切に表現することができる



国語科

相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるよう、話の構成を考えることができる

課題を発見し、学んだことを生かして解決方法を考え、実践し、伝え、共有し、振り返ることで、学びが深まる

2 教科等横断型教材の開発例の紹介 (1) 社会科と国語科

(授業の流れ)



2 教科等横断型教材の開発例の紹介 (2) 家庭科と国語科

単元 小学校第5学年 家庭科「食べて元気に」 国語科「提案文」

家庭科：課題解決学習
食品グループのバランス
等を考え、みそしるの
実を工夫する

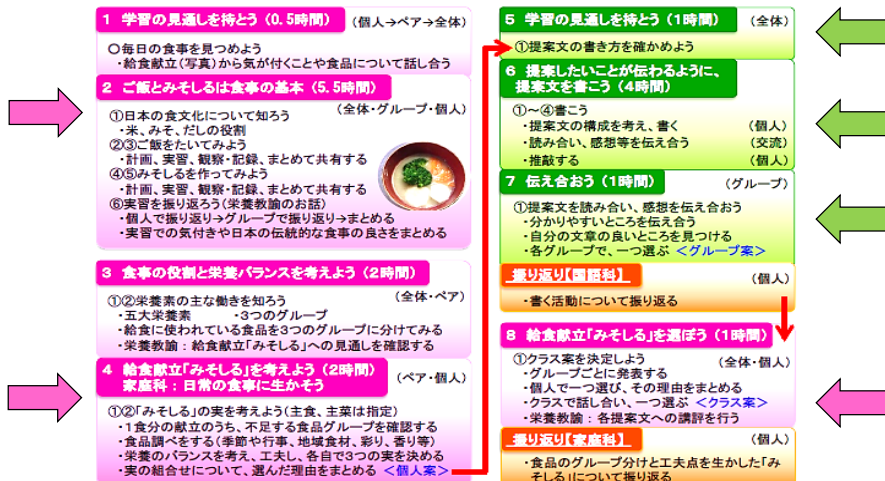


国語科：書くこと
自分の考えが伝わるよう
に、構成や書き表し方を
工夫する

- 家庭科は、国語科と連携を図ることで、家庭科の課題解決学習において思考・判断した成果（意思決定や工夫点等）についてその根拠や提案理由を明確にして表現することができる。
- 国語科は、家庭科と連携を図ることで、必然性のある学習課題を設定することができ、書く活動に対する学習意欲が高まる。

2 教科等横断型教材の開発例の紹介 (2) 家庭科と国語科 (授業の流れ)

＜目指す子どもの姿＞
 【家庭】日本の伝統的な食文化や栄養のバランス等、学んだことを生かして、生活をよりよくしようと工夫する
 実践的な態度が育っている
 【国語】自分の考えが伝わるように、構成や書き表し方を工夫することができる
 【共通】課題を発見し、それを解決する方法を考え、実践し、振り返り、共有することで、学びが深まる
 ＜教科横断型学習問題＞
 学びを生かして、給食献立「みそしる」を工夫し、伝わりやすい提案文を書こう



3 研究協議

- ① 社会科と国語科の横断型教材の改善
- ② 家庭科と国語科の横断型教材の改善
- ③ 別の横断型教材の作成

①～③のいずれかのテーマで協議し、
教材づくりのきっかけを作しましょう。

3 研究協議

協議のポイント（①、②を例に）

- ・ 研究の目的、研究の方法は適切か
- ・ 学習課題の設定とまとめは、これでいいか
- ・ 社会科、家庭科から国語へつなげる流れでよいか
- ・ 社会科、家庭科の学習内容、時間数は妥当か
- ・ 国語科の学習内容、時間数は妥当か
- ・ 振り返りの内容、時間数は妥当か
- ・ 研究の成果に無理はないか
- ・ そもそも、実現可能な内容になっているか 等

協議・発表を行い、互いの成果を共有しましょう